令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【中島小学校】

① 今年度の課題と授業改善策

	学習上・指導上の課題		授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題> 国語の「言語」に関する事項、算数の「図形」に関する事項に課題が見られる。 <指導上の課題> 生活の中でさまざまな言葉に触れ、使う機会が少ない。また、図形を視覚的に捉える訓練が十分ではない。	⇒	■基礎的・基本的な学習内容(計算・漢字・作文)の反復を家庭学習と連携しながら、推進する。【学年×10分】 ■視覚的な効果を発揮させた全ての児童に分かりやすい授業を展開できるように指導の充実を図る。【国・算を中心にすべての授業で実施する】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 言葉の特徴や使い方に関する事項、平面で表現された図形を立体的に捉える事項に課題が見られる。 <指導上の課題> 学習進度や言語の経験など個人差があり、指導が難しい。	⇒	■具体物操作やICTの活用により、課題を多角的に捉える機会を多く設定する。【効果的な活用方法を校内で検討する】 ■学習の振り返りなどを通じ、児童の学習進度を把握し、指導の充実に役立てる。【効果的な活用方法を校内で検討する】

② 全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)

知識・技能	前年度までに学習にICTを積極的に活用した授業が展開されており、ICTに関する児童の関心が高く、それに伴って情報の扱い方に関する事項の結果が高くなっている。国語では漢字や言語といった基礎的な学力が高い。一方で、選択式や短答式に比べ記述式の正答率が下がっており、自分の考えを文章に表す力に課題がみられる。算数では、基礎的な学力が身に付いている。ただ、速さと時間や表とグラフといった一部の学習内容で課題がみられた。
思考・判断・表現	国語では、文章から人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる問いでは課題がみられる。児童質問紙では読書時間が短い傾向が現れており、課題との関連が考えられる。算数では、速さと時間の関係や表とグラフなど複数の情報から問題の意図を読み取り、解答を考える問いに課題がみられる。また、設問後半で無回答率が上がっていることから、設定された時間内に問題を終えることができなかったという状況が考えられる。

③ 中間期報告 / 中間期見直し

	中間期報告 評価(※)	中間期報告 授業改善策の達成状況	中間期見直し 授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	自校で作成した「家庭学習の手引き」を学校だよりや懇談会で家庭へ周知を行ったり、高学年を中心とした「自主学習」の取組を推奨したりしている。そのため、多くの児童が基礎的な学習内容の反復練習に取り組み、学力の定着が図られている。	変更なし
思考・判断・表現	B	ICT機器の活用は、児童の関心が高い。引き続き活用を推進し、効果的な学習の展開を図る。また、児童が学習の振り返りをもとに、自身の学習進度に合わせた学習内容を選択して進める学習を推進する。	変更なし

※評価　A 8割以上(達成)　B 6割以上(概ね達成)　C 6割未満(あと一歩)

④ さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)

知識・技能	国語では、「話す・聞く」の領域において、学年が上がるにつれて向上が見られた。一方で、「言葉の特徴や使い方に関する事項」には課題が見られる。基本的な言語事項の定着を図ることが、「読むこと」や「書くこと」の向上にもつながると考えられる。 算数では、どの学年でも「図形」の理解に課題が見られた。一方で、「数と計算」といった基礎的な反復を伴う学習ではよい結果となった。
思考・判断・表現	国語の結果では、基本的な言語事項に課題が見られた。生活習慣の調査では読書量は多い様子が見られたが、普段の生活の中で、幅広い文章に慣れる(読む・書く)機会を増やすことが必要であると考えられる。 算数では「図形」の領域が引き続き課題となっている。低学年からの具体物操作などの学習活動を通じ、数量や図形の量感や感覚を養うようにしたい。

⑤ 授業改善策の達成状況

	評価(※)	
知識・技能	A	今年度の取組により、学校での学習と家庭学習が連携し、算数の「数と計算」など基礎的な学力の向上や、よりよい学習習慣を身に付けた児童が増えた。生活習慣に関する調査では、「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」「ものごとを最後までやり遂げてうれしいと感じる」といった自尊意識の高まりが見られ、児童が学習やよりよい生活について、高い意識ややりがいを感じている様子が現われている。
思考・判断・表現	B	今年度の取組により、児童自ら必要な学習内容や方法を考え、取り組み方を工夫しながら学ぶ授業や、ICT機器を活用した他者参照など協働的な学びを推進することができた。その結果、児童が自ら課題意識を持って学習に取り組み、主体的に学習する児童が増えてきている。

※評価　A 8割以上(達成)　B 6割以上(概ね達成)　C 6割未満(あと一歩)

⑥ 次年度への課題と授業改善策

知識・技能	国語の基本的な言語事項や算数の図形領域など、従前の課題が克服できていない分野もあり、更なる手立ての必要性が感じられる。一例として、書く活動を効果的に取り入れることで、文章に対する理解が深まり、広範な学習において学力向上への効果が期待できる。
思考・判断・表現	学習に対する意識の調査では、「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と考えるなど、協働的な学びに意欲的な児童が多い。一方で、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」「これまでの授業では、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」といった項目では数値が低くなっており、自身の学習した内容を正しく振り返り、検証する力を身に付けさせる必要性が感じられる。